

▶2024年 TICAD 閣僚会合

AFRECO

KH▶ 一般社団法人アフリカ開発協会 ▶ 2024/09/03

2024年8月24日(土)と25日(日)、東京のホテルニューオータニで開催された TICAD 閣僚会合には、アフリカ 54 か国中 47 カ国が参加した。

アフリカ開発協会では、会長が閣僚会合に出席したほか、上川外相主催レセプションでコンゴ民主共和国、セーシェル、アンゴラなど各国要人と意見交換を行った。また、8 カ国の代表とは個別の会談をもった。

同期間中、2024年 TICAD 閣僚会合・TICAD9 パートナー事業「アフリカの教育革新における日本の役割」(GPE 共催)も開催した。

2024 年 TICAD 閣僚会合

2024 年 TICAD 閣僚会合

参加国

共催者である AU の声を聞きながら、クーデター等があった国マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ガボン、ギニア、スーダン、また AU への資格停止になっているサントメプリンシペは招待しなかった。

サハラ・アラブ民主共和国（日本国、国連は未承認）、いわゆる西サハラについては招待されていなかったが参加。会期中にモロッコ、アルジェリアを巻き込んだ物理的行使の場面もあった。

閣僚会合

3つのセッションが開催された。

セッション1 社会：持続可能な未来の実現

セッション2 平和と安定：人間の尊厳と人間の安全保障の確保

セッション3 経済：貿易と投資の促進

特筆すべきは2点。1)参加した女性大臣を招いての女性・平和・安全保障(WPS)をテーマにワーキング・ランチを開催し、政府間開発機構(IGAD)を拠点とするアフリカの角における女性平和人材育成イニシアティブを立ち上げることになった。総括的な議論だけで終わる昨今の TICAD の中で、具体的なプロジェクトがこのように出てくることを評価し、TICAD9 にも期待したい。2)セッション3では、初の試みとして、官民を交えたパネルディスカッションが行われ、その後ネットワーキングも行われた。大臣の二国間会談でもアフリカへの投資を訴える声が大きかったようだが、民間の目からは、外務省が URL に掲載している危険情報をもう少し詳細にしてアフリカへ投資がしやすくなる環境づくりを外務省が行う必要もあると考える。

また、閣僚会合終了後、これまでは議長サマリーであったが、今回は共同コミュニケが発表された。

各国代表との AFRECO の個別会合

モザンビーク

8月23日(金)12:00-

外務協力副大臣マニュエル・ホセ・ゴンサルベス氏ほか

- ・水力発電を含むエネルギー案件
- ・ヤスケの学術的研究の件
- ・アフリカ賢人会の件



ザンビア

8月24日(土)10:00-

財務国家計画大臣シトゥンベコ・ムソコトウネ閣下ほか



- ・医療保健のデジタル化
- ・アフリカ開発銀行次期総裁候補者
- ・財政状況

南アフリカ

8 月 24 日(土)12:00ー

国際関係協力大臣ロナルド・ラモラ閣下ほか



- ・農産物などの日本への輸出
- ・来年の G20 議長国としての役割

ガンビア

8 月 24 日(土)17:00ー

外務事務次官ビツタイエ氏ほか



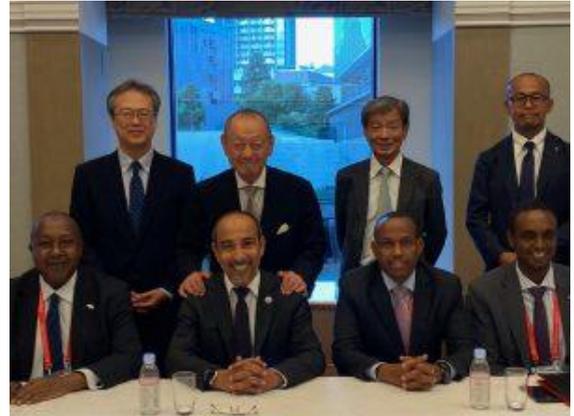
- ・首都バンジュールの下水案件
- ・電力案件
- ・東京への大使館設置案件

ジブチ

8 月 25 日(日)16:00ー

外務国際協力省次官ハッサン氏ほか

日本ジブチ友好協会として出席



- ・協会のこれまでの活動紹介
- ・年内のジブチ訪問計画

リベリア

8 月 25 日(日)17:00ー

外務大臣ニャンティ閣下ほか



- ・日本ビレッジ建設計画案件
- ・在大阪名誉総領事候補

→日本ビレッジに関し協力していくことを確認するために、外相と会長が MOU にサイン



南スーダン

8 月 26 日(月)11:00ー

外務国際協力大臣アブダラ閣下ほか



・地図作成案件

タンザニア

8 月 27 日(火)11:00ー

外務国際協力副大臣チュミ氏ほか



- ・ドドマ大学医療機器提供の件
- ・ドドマ大学バイオ・メディカル・エンジニア・プログラム案件
- ・ドドマ大学土地改良と農業案件

2024 年 TICAD 閣僚会合・TICAD9 パートナー事業

ラウンドテーブル: アフリカの教育革新における日本の役割

8 月 27 日(火)13:00ー

参議院議員会館特別会議室において、GPE (Global Partnership for Education)との共催。

2024 年は、アフリカ連合の Year of Education にあたることから、在京アフリカ大使と共に日本とアフリカ間での教育協力について各プレイヤーの現状共有を行った。また、来年開催の TICAD9 に向け、国際教育協力分野で日本政府に対しどのような支援を求めするか、アフリカ各国の意見を集約することを目的に開催された。

28 の大使館と、外務省、文部科学省、JICA、メディア 4 社など、総勢 44 人が集まったの会合となった。

プログラム

1. 開会の挨拶(アフリカ開発協会矢野会長)
2. アフリカの教育変革を支援するために日本ができること(外務省 堀内アフリカ部長)
3. アフリカのための教育資金の活用(GPE ノース副最高経営責任者)
4. コメント(逢沢一郎衆議院議員)
5. オンライン: パートナーシップ協定の準備と GPE マルチプレイヤー利用に関するマダガスカル事例紹介(マダガスカル教育省ロブソン長官)
6. Year of Education と日本への期待について(エル・ハージュ・モーリタニア大使)
7. コメント(文部科学省北山大臣官房国際課課長)
8. コメント(JICA 井本理事)
9. 質疑応答と議論
 ネルソン・リベリア大使 発言
 ニャコチョ・ジンバブエ大使 発言
10. 終わりの言葉(エスティファノス・エリトリア大使)



議論内容

日本がアフリカの学校インフラに大きく貢献してきたにもかかわらず、アフリカの基礎教育就学の状況はまだ危機的といえる。1 億人以上の子ども、青少年、若者が学校に通っておらず、初等教育終了時に読解



力の最低レベルを達成した子どもは 5 人に 1 人しかない。アフリカ各国の努力が一層必要である一方、各国とも課題はちゃんと認識している。その結果が、アジェンダ 2063 やアフリカ大陸教育戦略など現在進行中の政策やプログラムだ。問題は資金であり、その点、日本からの資金援助が停滞しているように見えるのは残念である。教育水準は開発や発展を決定づけるものだからこそ教育システムの変革は重要で、日本からアフリカへの益々の支援を希望する。

事業後、参加者からはスピーチ原稿を求められたり、TICAD9 に向けてさらに議論を重ねる重要性を訴えられかけたりし、一定の効果があったと考える。

GPE とは

GPE は 2002 年に世界銀行が主導して設立された教育問題に特化した国際基金で、現在、議長はキクウエテ元タンザニア大統領。すべての人に公平で質の高い教育を提供することを目的として途上国、ドナー国、民間企業、財団、多国間金融機関、国連機関や NGO など多くの組織間のパートナーシップに基づいて運営されている。世界中から教育のための資金を調達し、教育システムの変革を通じて途上国が直面する教育課題を解決するため支援を行っている。

GPE は、以下 3 つの点に取り組んでいる。

1. 重点的・長期的な開発支援と迅速な緊急支援
2. 途上国政府との連携を通じた教育システムの構築
3. パートナーシップに基づく効果的な教育支援

GPE には、**マルチプライヤー**という革新的資金調達の方法がある。例えば JICA が 3ドル出すのであれば、GPE はドナー国が拠出した基金から 1ドル加える(民間の場合は1:1)。結果、JICA はパートナー国の支援事業をスケールアップして実施できる。

また、債務問題に苦しむ国には、パートナー国への債務返済を、マルチプライヤー資金を使って教育投資に転換する**Debt2Ed**という資金調達法もある。すなわち、アフリカの A 国がパートナー国と Debt2Ed を通して債務交換に合意すれば、GPE マルチプライヤー資金から一部 A 国に追加資金が出され、それを活用しながら A 国は債務返済を行う。返済完了後、パートナー国は元の債務と同額を A 国の教育のための無償援助として供与する。

資金がなければ教育はできない。教育がなければ開発も進歩もない。この負のループを断ち切る方法が GPE にはある。

TICAD9 に向けて

アフリカ開発協会では、TICAD6から続けている保健医療分野での活動成果を TICAD9 である程度発表できればと考えている。また、アフリカ諸国での基礎教育充実のために今後もラウンドテーブルなどを企画し、保健医療と同じように TICAD で基礎教育をテーマにもらえるよう外務省に働きかける。

協会会員の皆様の案件については、この機会に益々確固たるものにしていきたいと考えておりますので、是非、早めに案件の状況を共有していただきたくお願い申し上げます。できる限りのお力添えをして参る所存です。